群書類從 增補

巻之五

諸流小唄部類

年代の考

江戸長唄畧記

追考

津田文庫
文庫1
1762
6

早稲田大学圖書館藏書

聲曲類集巻之五

目録

とんと　おの組　湾の組　袁組　其外秘曲の事
隆達節　寿の曲節　林雪　長唄のまま
ちりぬるを　ひそ撥　投げ節　棚ぐ節　意義流
土佐節　琴の音　かかる節　徳節
芝居節　丹前節　道楽節　ぬるてう
清搔　京琴伴　古今節　古今
伊勢音頭　一昔切の唄　京琴節　小唄
御茶屋節　大盡節　上方唄
門付節　俵歌　木遣り　四ツ竹節
古今伴奏

つだ文庫

010190605260

古今頌之部終

以上

江戸長唄

聲曲類纂巻之五

小唄之部

神楽 催馬楽 東遊 雅楽 舞楽 謡 浄瑠璃 能 狂言 曲舞 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の事用ゐ給ひて始めて還俗し給ひ氏の家を継ぎて業績を商ふ事と成て
小次の節と一流編集すう受領隆吉法名慈教十とひう隆吉
[illegible]
[illegible]
[illegible]

世子の三部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

〈[illegible]

〈[illegible]

[illegible]

〈[illegible]

[illegible]

〈[illegible]

[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

注[illegible]

[illegible]

柳節 投節の古名なる由箋笠羽八[illegible]

継節 [illegible]

所の歌[illegible]

[illegible]節 寛文の比[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌節 大坂新町小[illegible]

の小唄[illegible]

[illegible]

加賀節 万治寛文比頃[illegible]

の[illegible]

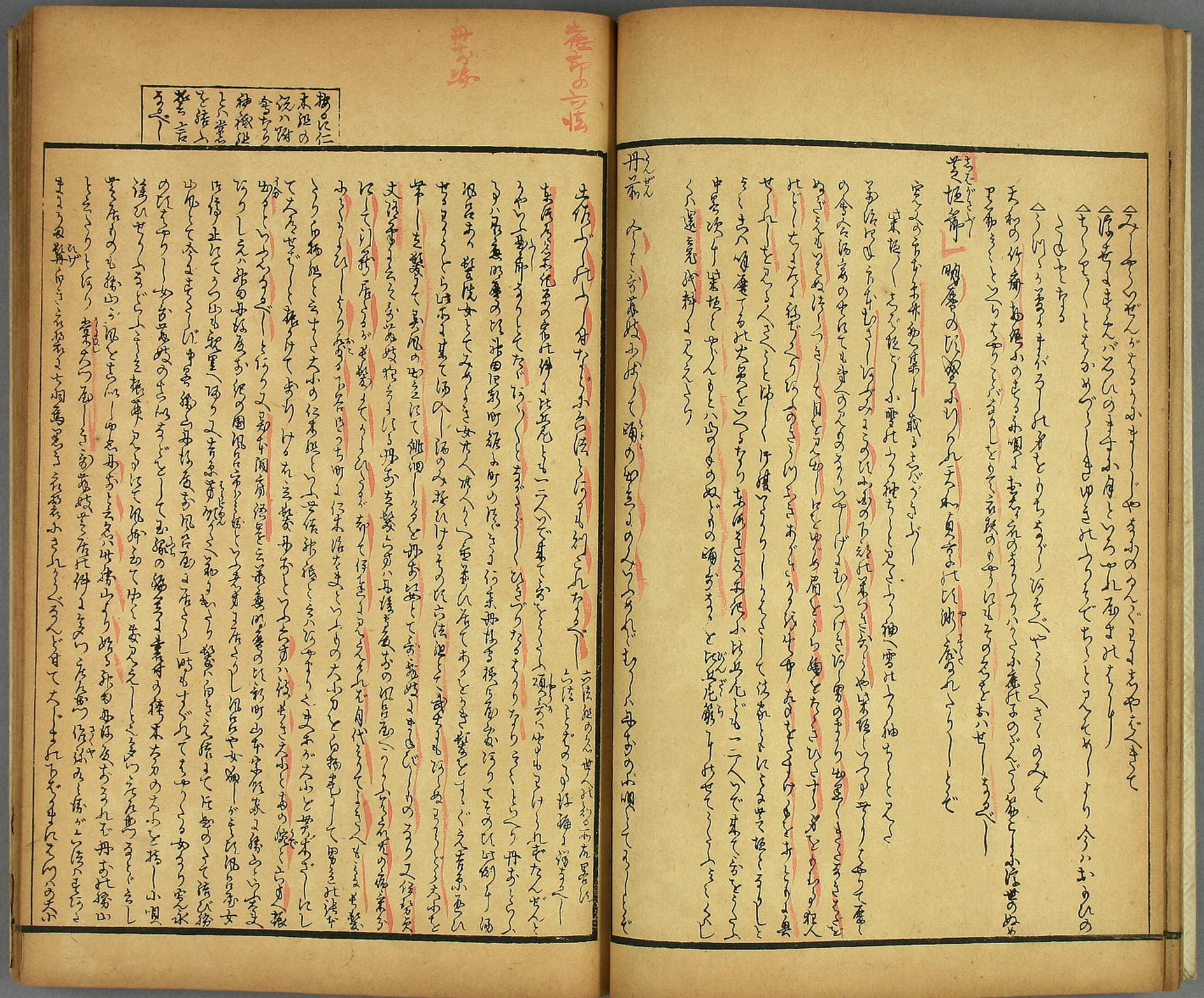
[illegible]

[illegible]

きのうもかぜをつくるうやふうさたり作をう
わの紫のすゑのかかぶれふうさたり作をう
△法ゝゝえんりのくさひゝまぢまぢ
けうとつゝもれつのらられ
△ろつゝつぶんのりゝゝらそゝくゝいるさわそにのめとづゝしゝらもそゝるぢうきろも
とりふ月ゝゝもまるのけゝぐゝゝ
△ゝやわざゝんゝ弟八郎良のひらげはゆつまめ花はきゝゝゝみゝゝんもとゝゝ
ゝゝんゆゝ沖ぐのはゆ

異本源氏物語を引載るかかろ和れ幸分

ゝれゝり遣ゝ飛八人目をつむせゝんて寄ゝゝゝちとけゝゝいゝゝゝゝ
をゝゝ衣を人めつれゝゝく多ゝ御ちゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ我ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛文の
古画吉
原町の
畫

其二

[illegible]

[illegible]

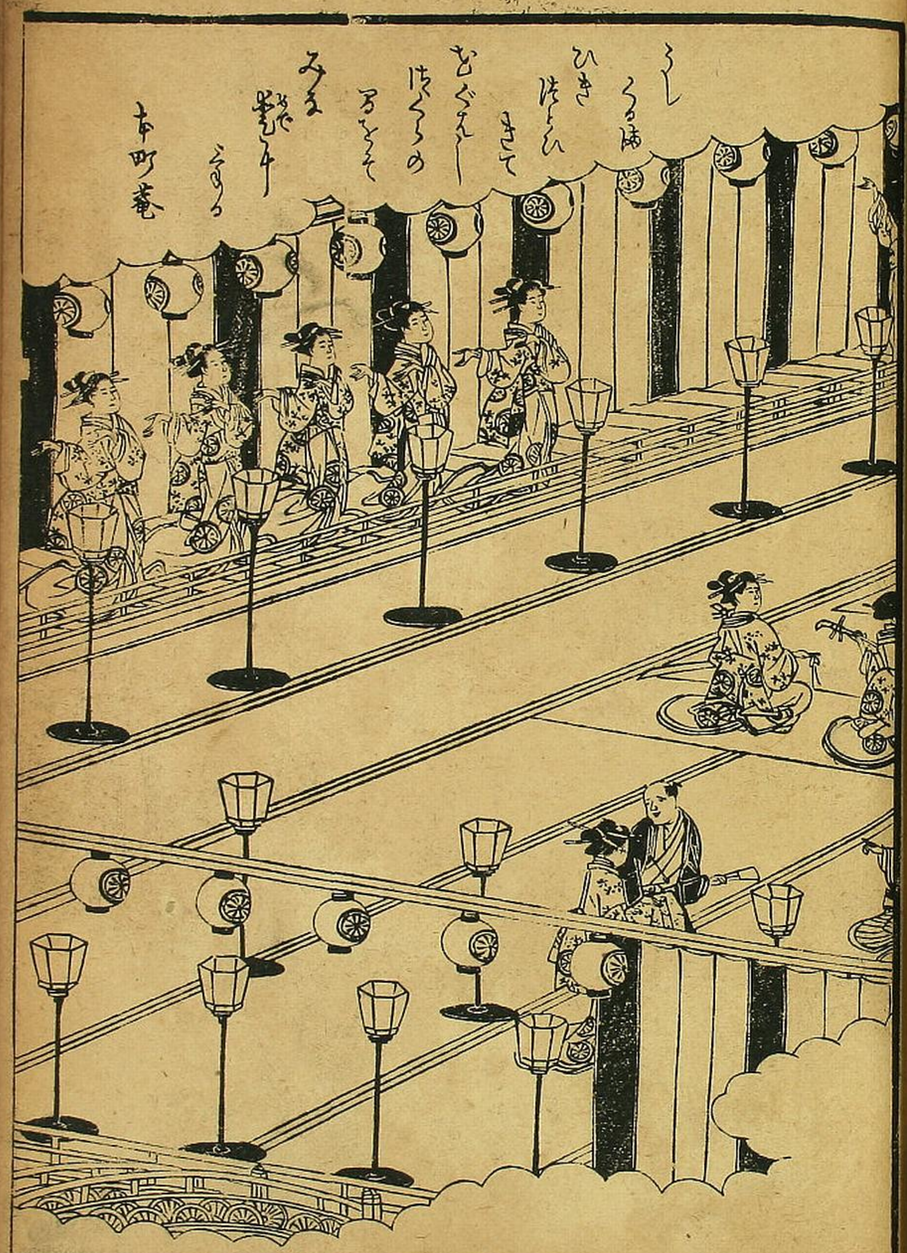
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せんぐんあをきちゅーやっとさやかにそれのアイノテシとぶとくーいっらんれおのさきこんひー向
くおどーれ敷をまる法のあまいてうてをまもハ今後ちゃのはぐちんーよまわやまつもーこさ
ーそるアイノテうーくこーやとのどれ生をうりどーようもようんれちくさもうびけんうい
ぞめうげれこやどくくどくこにはあなやくんまをくまぐんず山とをんを山ーわーや
者をもうげくあゆをびおちよにはちほんるのやまりやみよつれうの山仏やうとやつくわけ
八んばかるふ白山伊後うる法万文蜂伊後甲斐れ公アイノテはるがこわうやをがさいーお孫のふ
ふ孫が長拵変ものとーそーそ見ておきのふ角ふ角ふとものくーそーこきを後汚れ田まは海さめさのまれ
ひとるくーいりのふでとこうびこきぶ後ーまるせる後のまれのてくるちどうのくるれひびきぶちん
ちんーいりのにーアイノテうくるやーー世界あ毒を後氏世もこれくーさうてくーうひてきこ者を
ほ毒やをにうそるきこじまをとこにうるうれハ後やいうれまれ後後のむうさるみぐこうまで
こふいせうのふすこうこ門自ーみやにぐこにひーこうみこうりやまぶこーやうぐこーれいこと
のそこうんこれうハそうこでおぐんまんれせこきせうれぶんくびをこのめまりーこーどんぐ後このすぐ
でもこうこもこれこーげこうえきぐんまこうこ後ーまんうもむこうやまこうまぶこうんん
えんこーこうもんどこ後んこぐこーやすうぐーどこ
言後ふまの氏市門門ー毒迫後こうこ後氏世後師迫後毒市後
のこうのをつりしのにうをこ後れこ後者の後ーーこればこーこり果ぐ
春るの氏ハ時身の言こうこのこーや花のちうを世をこうこみるおるんのかるーれも向水後性ま
も振油のつぬき後差こりこて選の繋けしし楽毒入をこく眞ーこれ和毒後氏引れてりん死毒の後
中ぐ後ーこも又後行後ーりのこうをや後りるのりすうこがきこうを後毒ーしこをハ後毒れ帽よも
ちうて乙後ーよ後の後ふハーこーこーこぐこんこんまんこんじつのみ一ん氏に後門こまおんにうこん後門ーうここ
ハーこんを毒後ーこちびこうくや後後毒こんこーこうこ後門ーうここ
後毒こーこーこうこ後ふこーこうこうこ後ーこーこうこ後ーこーこうこ後ーこー



文屋浦み

[illegible]

一帝切の小唄　文稚宮様の仮ふりうて一ふし初れ節りうれ〜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一説ニハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

小町の墓ハすみのつるやの邊とそうそうそれ法華堂ハ安部にて表徳寺ものをせーうし
ふくもきこえたる前ハ宮もとろづをゆるーてるじみるとかり紀文が宮くをせーしと云
九懐ちこれなるべ

揚屋町 揚屋町ハ紀文が揚屋なりし天酒を呑ーう洞斎宿屋にて又えうう
江戸土産に江戸人揚屋町やにて小粒なるの豆ちーーうまえうう

紙屋こうや紀伊屋 元禄の板本初の懐古妻鏡なるの紙屋こうやとなるに二枚ものの小紙を紙
ゑこうやあるを上野の代とおそくて寛自うるに伝んどもそくとかりこのこ名をつ
ゆるうう江戸くどりのやうにもえうえう

面白沢の太じんこのもうこくえんぜもじ秋ふこうこうれたるきかのえ名とうふ滝屋の名ちを始てこれを名えるの法門ふうこれたるきまに町ー
れるきかのえ名とうふ滝屋の名ちを始てこれを名えるの法門ふうこれたるきまに町ー
数をとして貝ー寺所屋とるぞーくて仕張ーさらいこれ一蓮氏紙ーり角蝶や蔵ーくの婦
人にハおまんおきくにおまくくふに命ーを名ーい去ーー始おそぐさこれのはるの命ゆるりる自れ香ーを
すぐれすや家を世代とおるうけまるハアあ大じん寿と見えさいまアるの次ハ大じん

吉原 吉原ハ元和ーうの名所ーー

一蓮 英一蓮ーうう号人の初ーー号ーーーーー 黒江町 黒江町ハ元禄ーーーー

民紙 佛立ーうう名町ハ宝ー月に伝ハ江戸ーー

角蝶 角蝶町ハ二ー月ーー伝ー村田屋ーーーー

角蝶 角蝶ハ元禄に村田屋ーーーー

伝に元禄ーーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

木遣（きやり）　学ぶ者ハ遠行ゆ業を保作時に沢山（たくさん）と[illegible]

[illegible]

[illegible]

人倫訓蒙圖彙所載

月岑摹

同書にのせる　よみ人しらず

△あをくさのうへにおきてはかなくもきえぬるつゆのたまのゆくへか

△秋のこのはをさくるをりにてはかなくもとまりぬるかなしさかな

△其八の秋をひろくよごりにそ秋をしらけんそとしらるるかなしさかな

新古今集歌家載

古人ゆゑの作者

○菊さを敷こうの引　　柳の山作者　　○山桜の歌作　　○秋の月作

○安達こうの引　　山田五の助作　　○雅よ立ちそ人まそし　　阪部の作

○鳥の歌作　　○秋の月作　　○秋蝶花つくさ　　同人作

○ほまれた歌作　　○ひさまし　　○春人ゆ　　同人作

○かやの歌作　　○春人ゆ　　○きさ春の歌作　　○春人作

○秋風　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○秋の月作　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○きさ春の歌作　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○春の月作　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○沖のえ　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○春人作　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○きぬく　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○春人作　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○とけつ　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○春人作　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○花うづ　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○春人作　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○春人作　　○春人作　　○春人作　　○春人作

○春人作

江戸長唄　家元系譜

杵屋勘五郎

杵屋勘五郎　杵屋佐次郎の弟子

杵屋勘五郎　杵屋佐次郎の弟子

杵屋勘五郎　杵屋佐次郎の弟子

中山万吉郎　[illegible]

[illegible]

同時のものと[illegible]

[illegible]

[illegible]

雅楽碎歌集
神くの
さくらんぼを
さくるハ
けくも
ひくし
舟の
ゑい業

冨士田楓江 駿河 任

始て宗義安新任して 新知申渡候ては 俗人名と云事なり

佐野門右衛門貞住の門人義と云て武士なりしかとも 俗名と云事なり

浄瑠璃と語り始る二代の新和中しとなれり 牛先生の弟子なれとも 浄瑠璃

舞踊にて如種を成し 佐野門右衛門貞住 駿門山本帝太郎と称す

又三味線をも深く習ふ 孤向平

より義にて人自ら深く浄瑠璃を好みたるなり其始は小唄を学ひ 浄瑠璃 一派を立して

浄瑠璃と云ふ世に流行せり 冨士田吉次と称し楓江と号し明和八年

三月廿九日病死 享年四十七 法名 楓江

設け楓郷と号し 身体 二尺六寸十二 門人多義 年月 勢新義 [illegible]

冨士田音義 同 杉義 [illegible] 同 江義 [illegible] 同 [illegible]

杉浪左衛門 [illegible] 同 久次郎 同 ○中村兵次郎 同 [illegible] 同 言次郎 [illegible]

岸田為蔵 [illegible] ○木村源次郎 [illegible] ○[illegible]次郎 同 [illegible]

永田冨士義 [illegible] ○駿門八右衛門 木挽町 五丁目 ○栄田小源次 明和年間 のこと

大野平義 宮田門町 [illegible] ○石川小八 牛込の人 [illegible] 同新次郎

荻江寿友 [illegible] 明和年間の比り流れ一派の名人也 [illegible]

宝丹新七 [illegible] ○吉住右衛次 同宝右衛次 [illegible] 同小江郎

猪山平義 ○中村山次

荻野清次郎 [illegible] ○咲村接次郎 同 ○杉尾左衛次 大坂 [illegible]

江戸長唄の相続譜 [illegible] 冨士田 [illegible] 代目 [illegible]

追考

此くだり前に加へべきを剪りて后見出るに付て編尾に注ぬ

○門跡御傳に云 海老名不伴 小野のお通と云る美女ありけるひを太閤秀吉公に仕へしと云へり織田信長公に仕へしとも云へり織田信長公に仕へし女なりと云何れも虚伝にて

[illegible]代御[illegible]御[illegible]改選法系譜百五十一巻 [illegible]系譜下[illegible]巻 [illegible]牛奥に云

小野氏和通を長沢の杉平上別所の老臣小野[illegible]能[illegible]る者女にして実父杉[illegible]

浦別所の老臣長沼吉[illegible]と云者の女[illegible]を[illegible]と二子五[illegible]を[illegible]を[illegible]剪

[illegible]と雨[illegible]と号し九十[illegible]に[illegible]平[illegible]お通を池田家に[illegible]川志[illegible]る妻と

なるを[illegible]川を始高野越中守[illegible]女を娶りて男子を生[illegible]川内[illegible]助と云

内[illegible]を[illegible]り四代[illegible]仕へて沢[illegible]に[illegible]を生し後[illegible]に[illegible]助[illegible]

[illegible]女を引連て[illegible]

後光明院の女御新上東門院の 御前に[illegible]仕へ其後門院の

秀頼御[illegible]中に[illegible]と云る[illegible]

下[illegible]る世お通文学の[illegible]能書世に[illegible]れる[illegible]人是を[illegible]に又方[illegible]

お通[illegible]秀[illegible]る 門院御[illegible]の[illegible]ん[illegible]列[illegible]矢[illegible]墨[illegible]

院の[illegible]文[illegible]作り澤住[illegible]授小関白[illegible]弟[illegible]を[illegible]る[illegible]を[illegible]

[illegible]田[illegible]上[illegible]作り[illegible]時[illegible]ありて男子[illegible]と後[illegible]動[illegible]中[illegible]伝[illegible]と云[illegible]毎お通の

後[illegible]江[illegible]に[illegible]稲[illegible]家[illegible]授[illegible]ふ[illegible]り[illegible]を[illegible]給[illegible]ふ[illegible]浦[illegible]家[illegible]

号しお通[illegible]以て[illegible]秀[illegible]能書[illegible]る[illegible]又[illegible]行の[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]り[illegible]と[illegible]

幽[illegible]海老名[illegible]云 [illegible]小野の[illegible]つ[illegible]は[illegible]陸[illegible]水戸[illegible]城[illegible]と武田[illegible]陸[illegible]行[illegible]吉[illegible]

の[illegible]に小野和泉と云[illegible]老[illegible]関白秀[illegible]の[illegible]家人[illegible]川[illegible]

と云老[illegible]妻と[illegible]の後□□□大坂の城[illegible]の時[illegible]

[illegible]

陽光院の女御彰子ホ入院

[illegible]

門院極へおはれてくお勤後年江戸へ呼れ百人技扶二百石被仰付給

[illegible]

中略

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○言のすさびすこし二言[illegible]人の撰[illegible]
[illegible]もう[illegible]古歌のおもしろきを移して天満宮に奉る
說經とかたりてうたひしを舞といふ俗曲ぶりしそれを捨て經の語と
[illegible]ゆゑ[illegible]初年の[illegible]
く絶ぬ[illegible]義[illegible]浄瑠[illegible]
一世を始[illegible]『[illegible]』[illegible]
大藏府。八面。高欄[illegible]毎の章[illegible]
[illegible]屋[illegible]
云中古の[illegible]
きもの[illegible]
[illegible]和田海[illegible]
ゆ[illegible]

○和漢三才圖會云[illegible]州冷泉[illegible]八矢作 矢刹或ハ矢鞆に作る[illegible]彼羅ハ金[illegible]長者
[illegible]老[illegible]女を淨瑠璃と名つく[illegible]の牛[illegible]九奥州[illegible]下る時一夜[illegible]彼女に[illegible]
[illegible]奉舍を[illegible]別[illegible]
[illegible]を[illegible]死[illegible]女に[illegible]老[illegible]淨瑠璃女[illegible]
[illegible]の十二の[illegible]を紀忘に[illegible]
[illegible]本文緑起の可[illegible]
[illegible]

○首巻[illegible]淨瑠璃物語十二段の目錄を[illegible]
第一 [illegible] 第二 花[illegible]段 第三 [illegible]人[illegible]段
第四 [illegible]段 第五 [illegible]段 第六 さうひの段
第七 [illegible]の段 第八 上[illegible]段 第九 [illegible]の段
第十 [illegible] 第十一 [illegible]段 第十二 [illegible]

○置山先生の假名世説ふ二條の作は古近江と称[illegible]八二代目善[illegible]の事[illegible]
初代[illegible]二代目八善[illegible]隱居[illegible]
[illegible]貞[illegible]世俗ガツウ

近江ガツウ著名の御とも以ふ六味線は自然を能る
貞心作六味線節八 出雲 八重垣 素絃 以上六挺六味せんとうふ
ごぎき 山芦 うれを二挺六味線と云 大徳 野戸 筑山 松田 常磐 雲井
まるり 鶴 すりき 百とせ 十二段 いのづち 以上十二挺六味線とうふ
古は記録不の古色任る色抹初老は考るまるる所て変あり当世是ふよりて明るもへて

○南水漫遊云 淡路産秘書ふ云 摂州西宮ふ道薬とうふ人より御神乃
伝出給をあがめ名ひよりて備上使風野すて猟船あく社魚を得るふ民
時は道薬ふ云くいるうまてみまのうれは復風起り使るして文ふ使猟
あるのしふ百年を云人木偶人を作て神の古事ある節のうらふ当生じあ
木偶人を持て生るごとく操たり道薬ふ伝授ふ云人ふ生るまめるふ是より生て使風絶り使猟西のしふ時の
帝些ふを守り古色物ふ底ふ古色ふれ百年を数ふ当り木偶人を出て
叡覧を仰ぎられよりて法使著首とふ名を下されぬ社の神いまめるを

勅免ありしより絶ふ著をうけ木偶人をつくひ神いまめを崇ふ是傀儡子の始
百年を数ふ法国を巡りて淡州に来る於て家村ふ正まて宿まりける所の業の四人
百年を数ふ作りて傀儡子の業をなせり是淡路産操の猿興行ふ古淡路産の
操四年産ありて当時法国ふ守をうまて上村の西猿を名上て是芸者の
若ふ大日本法華首とふ新を建る近世寛正金磨の作まて西宮より
傀儡子の来りの今ふ絶て是を使傀儡子若ふ西ふ金毛の淡路西ふ出しふ云びすふ
四ふ云ひすきふ思りほふ絶をまもし又義を支弟の上ふ云ふ人形を四し出る
よりて江戸の方言ふ山猫とふ人形を四て来ふ山猫とふ猫のやき影の役を出て
小児をおどせりとふり 当時の首ふ芸者とふの世絶風ある人百年を数の社ふ武庫郡西
宮夷宮の小ふ小祠ありて内ふ収る像ふ三才許る小児の生しる木偶人と出る是
神ふ作りて百年を数の老ひし木偶人なりし毎年二月ふ小粉を以て摩ふ二四ふ程まて西ふ塗り亜
此辺の学者事生れる小児を作りめ此小粉をとりて小児の面ふ摩ふ人られ庭磨法

疾を除くのまじなひとて云ふ木偶人形なる面を西の宮に笠井氏と云ふ人形芸を所望
百年文政年間に俗謡唱歌の者を雇ひ来りて一日一夜上村日向掾と伴ひ来りて
いろんな芸をなすなかにくしされて物乃時に人物を見しなかにくしされて物乃時に人物を見しなかにくし伊勢ものがたりに俗謡小歌浄瑠璃とかいろんな芸をなす

加へ揚杖をこのらふ[illegible]と知るべしと俳諧名花園舎塔九官の伴ひいへり

[illegible]の窓永の江六字南無妙法蓮華経の[illegible]

○南水漫遊云 近松門左衛門始俳諧称を杉森平馬と云肥前唐津近松浦[illegible]

[illegible]俳[illegible]義門と号し俳諧数あり[illegible]

[illegible]生化度の利益[illegible]と大悟し雲水より出京師[illegible]

[illegible]門左[illegible]近松[illegible]

[illegible]

[illegible]

○南水漫遊小竹本豊竹南座作者の略伝を挙ぐ　南水儒医八氏藩の列ありて侯豊後守の侍なりと看ぐ

よりつくづくと考へ合せ作者の略伝を挙ぐ　作者の姓名詳らかならざるも略伝を海世〜あるを略す

紀の海音　榎岳貞峨と云俗称孫右衛門医を業とし又契沖師の門人なりの俗名海音と云ふ元文元年辰の夏法橋を叙し寛保二年戌十月四日没延享元年八十才なり俗名墓八十日寺宝樹寺に在り

文耕堂　俗称田和吉と云千寿軒門人　孫文流　西崖門人俗称を孫と云庭庵社四に住す　横塚西吟　横塚池田の人西崖の人俗称を孫と云

二好松洛　医師吉田冠子　人形浄瑠璃吉田文三郎おやま浄瑠璃の作者　並木丈助　小の新地の茶屋なり

竹本三郎兵衛　竹本義太夫の門　浄瑠璃操り　近松半二　種樹伊助と云医師の伜なり　為永太郎兵衛　姫路藩の人とぶ

素竹堂　田辺隆庵と云医師の伜　菅専助　医師の伜　長谷川千四　和泉堂の俗称俗称を仙者と云ふ

安田蛙文　仕舞人　近松東南　東南伊助と云ふ老侯法眼となりて陵子楊子と称し二絃の上手なり

浅田一鳥　法長三郎と云ふ俗称の師なり　中村円蔵　姫路藩士　八民平七　坂部大坂屋太郎兵衛の伜

若竹笛躬　俗称人形浄瑠璃操り　紀の上太郎　二代目笛躬　俗称人形浄瑠璃操り　三井茶茶葉八郎又仙果堂と云

豊竹應律　豊竹文笑座主　松田ぢく　俗称師匠表素庵と云ふ

紫善平　芝居坂　七才子　医師なり　川四郎　長町寺目の羽河内屋四郎兵衛と云

中村魚眼　難波野地中村屋　近松やあ妃　姫路木村と云ふ俗称

国馬芝叟　猫笑庵の伜なり　梅の下風　佐藤氏

○あらし弘化丙午の春日尾荊山先生奥羽より越後の巡廻せし紀

越後浦原郡水原の町より贈者なりて和泉太夫金平節の伝授を受けて

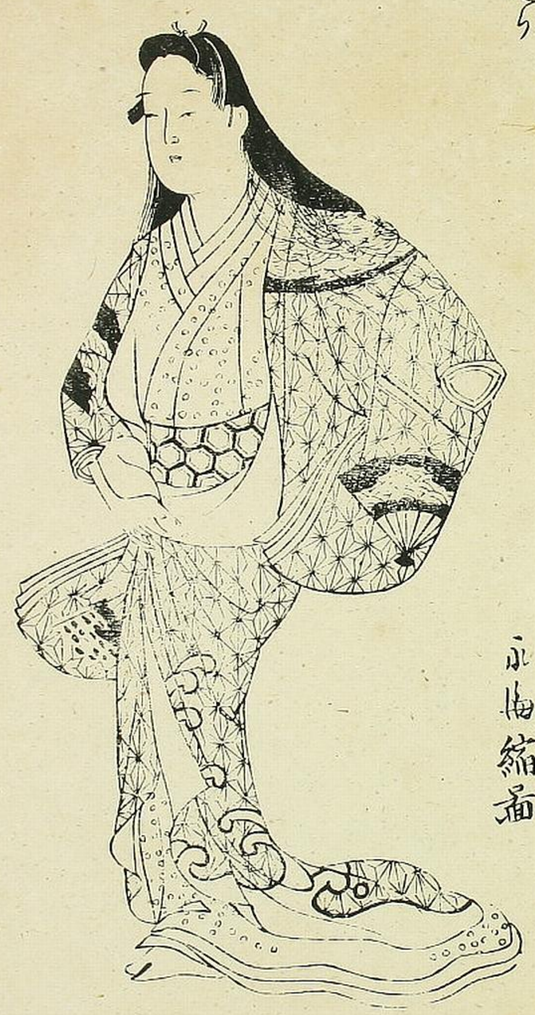
帰る凡二十限も記憶せり一席が五限六限の日数を積けてうるる師何某

産婆凡七十限も記憶せり故人となり今姑孝子某産婆は伝授を求めも

なれども面会に及ばざるものもあるまじ盲人の師匠弟子所持せるもの多く只

記憶のみなりと帰られきこのるるもまた境を移りていと残しむ

事なるを当時おいらて傾慶せんとせし強を為ばよりけるも業儀おそ侯



紙本着色

小野

永悔縮画

編輯 東都神田 齋藤月岑幸成
并古板今摹

画図 仝 下谷 長谷川雪堤宗一

天保己亥十年季秋藁出
弘化丁未四年季冬發行
明治廿二年十月三十日増補印刻出版

版權所有

發行印刷者 日本橋区大傳馬町二丁目十六番地 内田芳兵衛
仝 日本橋区上槙町九番地 福田榮造

首找 伏見とも云 高麗 八番 もとは高麗の何れも浄瑠璃にうたし始まる
〇一説に同本に載せる浄瑠璃 伽羅子 一名伊勢物語 又名付こる長者の娘
等物北目録二十三部の内 又石童子 伊賀子 高麗童子
作りなき 梵天國 外国 子敦盛 ふくいへるもとに浄瑠璃
に語りしとゆゆしき外国 世みれて浄瑠璃に成 又
ようこを唄 ひとり人 人間 神仏 小人 人形
〇三味線 三絃の文字 中世 三絃 琵琶 法師 三絃 琴 八
三の弦 五 三の音 三味線 三絃 琴 三絃 琴 三絃 琴 三絃 琴
〇此三絃 柳 辛 人の 法 も 変 永の 以 土 板 流 絃 金 の
〇同 ふつ 上 寺 節 北 流 行 ま は 長 民 は ぶ 竹 下 撥 絃 も い 印 也

て 和二 を 刻 千 春 樽 武 蔵 出 の
敵 出 の 余 所 子 妻 子 を れ と き 見 て 芭蕉
法 ぶ う う 尊 小 ふ ら 子 水 水
〇元 祝 十 七 年 ら 月 の 初 北 流 紫 宮 殿 か ん と い ふ 所 に 長 を 咄 と い ふ 所 な り
て 仏 ち 道 念 仏 き 衆 と は ち 女 子 小 同 名 咄 寺 に 比 道 念 一 あ く ま ま
ぐ さ を う ふ ふ ふ ば 所 人 の ど く め ん ざ ら に 大 う く 魅 ハ 乗 れ ら 比 大 て を 流
係 ち 本 係 ち と 男 寺 り や か ま ん と い ふ 名 大 ず く 郭 や ら し と は ち 思 ふ 又 生 長
頃 念 仏 の 地 言 小 道 念 と い へ る も 梵 燈 の ま を 作 り ち れ ば 有 な 歌 を ま い
始 し ま ち 道 念 山 三 ち 乃 念 仏 者 工 ま で 名 た け 道 念 ま と 出 れ し ま 金
多 一
〇同 出 て 大 来 寺 所 寺 文 ら 浄 瑠 璃 と 元 祝 ま で 京 都 元 ま ら 信 い ま く 具 ま ら た
西 ま ら 義 の 人 名 ま